

優秀賞

見たくなかったのに

和歌山県 智辯学園和歌山小学校六年 末木 心

八月十五日の夜、テレビでアニメを見ようとしたら、祖母が録画していた番組を無理矢理見なさいと言ってきた。見たくないと言ったら、見ないのならアニメもだめと意地の悪いことを言うので仕方なく姉と二人でふてくされながら見た。

白黒の昔の映像で、楽しそうな要素が全くないので見る気がしないと云ったら、見たくなくても我慢して見なさい。見なければ、大切なものを失うかもしれないよと言われた。

ドイツのヒトラーとソ連のスターリンの二人のリーダーが引き起こした独ソ戦の記録だ。

アニメを見るためには我慢しなければ。そんな気持ちで見ているのに、気がつけば姉も私もじっと目をそらさず画面を見ていた。歴史の勉強で習った人名や出来事の他はほとんど知らないことばかりだった。

背中に爆弾をくくりつけられたソ連の犬がドイツの戦車にもぐるとスイッチが倒れて爆発し、戦車を破壊する。

「犬がかわいそう、ソ連はひどい。」

と私が言うと、

「ひどいのはソ連だけではない。日本は、人間爆弾と言われた神風特攻隊や鉄の棺桶と呼ばれた人間魚雷を使った。人間を兵器にしてみましたり、残酷なことは日本もしていたのだ。」

と祖母が説明してくれた。

スターリンは督戦部隊という見張り部隊をつくり、敵から後退しようとする自分の国の兵士を一万三千人うち殺した。味方なのになぜそんな恐ろしいことができたのだろう。

殺された若い母親にすがって泣く子供や、手を合わせる老人、今にも死にそうな横たわった兵士の目

が、画面から私を見ていた。

この戦争で亡くなった人は三千万人。そのうち二千七百万人がソ連人である。それは、東京都、千葉県、埼玉県の全人口の数である。

ロシアにとって二千七百万人の命の犠牲は、今でも栄光で誇るべき事であり、ドイツのメルケル前首相は、この戦争は恥の戦争だと全く反対の意見を言っていた。二つの国の考え方は大きく違う。そしてロシアは今もまた戦争をしている。

見終わった後、なぜか私はとても疲れた。想像できなくらい残酷な出来事を知ったからかもしれない。

知らなかったことを知るとはとても大切なこと、自分が生きている日本の平和は当たり前ではないこと、人が粗末に扱われないためには常に政治に関心を持つことと祖母は私たちにたくさん話をしてくれた。

私は、平和な日本に住み続けたい。そして平和な日本がいつまでも続くように願っている。そのために、しっかり勉強をして何が正しいのか、自分で考えて判断し、勇気を出して行動を起こせるような人になりたい。



見たくなかった番組だったのに、私の心に大津波を起こさせた。